

宙空電波科学研究センターと木質研究所が統合・再編され、京都大学生存圏研究所が今年4月に発足した。生存圏研究所から気象学会宛てに、この研究所を全国共同利用施設とする旨の要望書を関係機関に提出するよう、依頼があった。宙空電波科学研究センターは気象学の発展に大いに貢献してきたことから、要望書を出すこととした。

6. 6月理事会等(第32期第22回常任理事会, 32.33期合同会議, 第33期第1回理事会)の日程について日程を調整した。
7. その他

- ・山本正野論文賞は候補者を二人に絞り込むのに苦労していることが報告された。
- ・2007年の春季大会が125周年記念であることは33期への申し送り事項であることを確認した。
- ・2004年秋季大会の会場費用を9月に支払う必要があることを確認した。

平成16年6月15日

社団法人日本気象学会
議長 萬納寺信崇
署名人 勝山 税
署名人 古川 武彦

2004年度総会議事録

日時：2004年5月17日(月)14時00分～15時20分

場所：学術総合センター 一橋記念講堂

参加者数：総会参加票のうち有効票による出席者1833名、会場出席者108名

【総会成立の要件：通常会員現在総数(2004年4月30日現在3,468名)の過半数以上の出席がなければ成立しない。ただし、総会に出席できない通常会員で、当該議事につき他の出席通常会員に表決を委任した者、および書面によって決議に参加した者は出席とみなす。(定款第38条)】

議事：

1. 開会

萬納寺信崇庶務担当常任理事より総会成立の要件を満たしていることが報告され、総会の開会が宣言された。

2. 議長選出

総会議長に大西晴夫会員(気象庁)を選出した。

3. 理事長挨拶

廣田 勇理事長から次のような挨拶があった。今大会の参加者は今日までで約600名、発表件数は450件と盛会である。今大会の開催を担当した気象庁の実行委員会に感謝する。第32期では新しい気象学会のあり方を議論してきた。限られた専門家だけのためではなく、一般社会に開かれた学会を目指し、今大会では日曜にも開催して地球環境問題に関する公開講演会を実施した。また、国際化を目指し、アジア地域との交流を深める計画も進んでいる。一方で、

通常会員の過半数の総会参加者を集めるのは次第に困難になってきた。これは、学会の運営に対する会員の関心の度合いがさまざまであることによるものであろう。学会活動に対して会員が関心・理解を深めてほしいと思っている。気象学の研究の発展を示すことで、会員の学会運営に対する関心が深まることを期待する。

4. 学会賞授与

学会賞候補者推薦委員会担当の近藤 豊常任理事が選定理由を説明し、廣田 勇理事長から受賞者に賞状ならびに賞金・メダルが授与された。本年は2件、2名に与えられた。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

- ・中村 尚(東京大学大学院理学系研究科)
中・高緯度の気候系と総観規模現象とのスケール間相互作用の力学的研究
- ・木本昌秀(東京大学気候システム研究センター)
グローバルな気候系の変動メカニズムに関する力学的研究

5. 藤原賞授与

藤原賞候補者推薦委員会担当の住 明正常任理事が選定理由を説明し、廣田 勇理事長から受賞者に賞状ならびに賞金・メダルが授与された。本年は2件、2名に与えられた。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

- ・笹野泰弘(国立環境研究所, 現在内閣府総合科学技術会議出向)

ADEOS 衛星搭載センサー、ILAS の推進によるわが国における大気化学研究の発展に寄与した功績

・山本孝二（ハレックス）

気象予報士制度の発足、および、民間気象業務の振興を通じた気象学知識の普及への貢献

6. 2003年度事業報告

萬納寺信崇庶務担当常任理事から、総会資料に基づき、2003年度の特徴として日中韓の気象学会の交流が次第に本格的になって来たことなどの事業報告が行われた。

7. 2003年度会計報告

勝山 税会計担当常任理事から、総会資料に基づき、2003年度はその前年に引き続いて赤字ではあったが、繰越金と比べると額は小さいことなどの会計報告が行われた。

8. 2003年度監査報告

永田 雅監事から、総会資料に基づき、収支、会員数、会員制度の見直し、国際学術交流などの項目に関する監査の結果が報告された。

9. 日本気象学会定款・細則の一部改正

木田秀次理事から、総会資料中、4-1定款の一部改定の第7項で改正後の「召集」を「招集」と訂正する（3か所）こと、第9項は改訂の必要がないので削除すること、の2点を訂正することが説明された。その後、特別会員の対象を拡大するという会員制度の改訂の趣旨、文部科学省の定款モデルに従った改正である旨、などが説明された。

10. 日本気象学会第33期役員選任

役員候補者選挙が行われ、次期役員候補者21名が選出されたこと、理事候補者選挙当選者から推薦のあった理事候補者6名の紹介、理事候補者の辞退に

伴い後任として各所属支部から推薦のあった理事候補者3名の紹介を、総会資料に基づき、廣田 勇理事長が行った。

11. 2004年度事業計画

萬納寺信崇庶務担当常任理事から、総会資料に基づき、2004年度の特徴として、オンラインジャーナル“SOLA”の創刊が計画されていることなどの事業計画の提案が行われた。

12. 2004年度収支予算

勝山 税会計担当常任理事から、総会資料に基づき、2004年度の特徴として、オンラインジャーナル“SOLA”の創刊に伴う予算が計上されていることなどの予算案の提案が行われた。

13. 採択

以上、6から12の議案に対し、総会参加票による意見も合わせ、賛成多数で承認された。

14. 議事録署名人の指名

議事録署名人に杉 正人（気象庁）、前田緑朗（気象庁）を指名したところ、異議なく承認された。

15. 議長解任

大西晴夫議長により総会の議事運営に関する出席者の協力に感謝する旨挨拶があった後、議長は解任された。

16. 閉会

萬納寺信崇庶務担当常任理事により総会の閉会宣言が行われた。

以上の議事録の通り相違ありません。

平成16年6月15日

総会議長 大西晴夫 印
出席者代表 杉 正人 印
出席者代表 前田緑朗 印